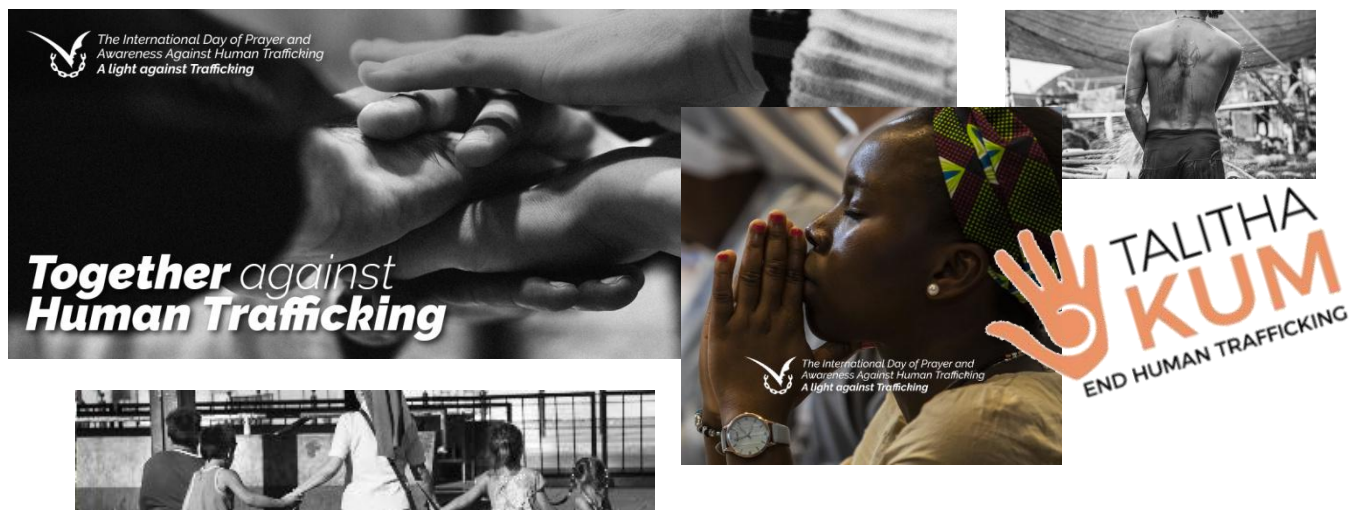


2月8日聖バキータの記念日にあたり、
この日を女子修道会国際総長会議(USIG)は
「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」としました。
教皇フランシスコも共に祈りと行動を呼びかけておられます。



教皇フランシスコは、昨年この祈りのために、こう呼びかけられました。

「たとえ私たちが見ないふりをしていても、奴隷制度は過ぎた昔の事とは言えません。この悲劇的な現実を前に、何らかの形で、人類に対するこの犯罪の共犯者とならないためには、誰一人それを見過ごすことはできないのです。今日、おそらく以前より多くの隷属状態が世界に存在する事実を、無視することはできません。祈りましょう。人身売買や、強制売春、暴力の被害者たちが、寛大に受け入れられますように」



私たちもこの呼びかけに応え、

まずは日本で起きている現代の人身取引問題に目を向け、真剣に被害者のために祈りましょう。そして、この問題を撲滅していくことを目指し、私たちに何ができるのかを考える日にしましょう。

例：外国人技能実習生の一部の人たちは、不当な労働環境や劣悪な住環境、虐待、強制帰国の脅しなどに耐えながら、奴隷状態で働いています。だまされて入国し売春を強要される外国人女性もいます。

例：日本人の女子高生や若い女性たちを狙った性的搾取など

*他にもあると思います。この機会に、具体的に調べてみてはいかがでしょうか。

聖ジュゼッピーナ・バキータの物語



- 1869年 スーダン西部、南ダルフル地方のオルゴッサ村にて誕生
- 1876年 アラビア人にさらわれ、その後、奴隷商人に売り飛ばされ過酷な奴隷生活を送る
- 1885年 イタリア副領事に買い取られヴェネツィアへ
- 1889年 奴隷生活が終わる
- 1890年 ヴェネツィア大司教アゴスティニ枢機卿より洗礼・堅信・聖体の秘跡を受ける
- 1896年 ヴェローナ・カノッサ会母修道院にて修道誓願宣立
- 1947年 スキオ修道院にて帰天。
- 1992年 列福
- 2000年 列聖

教皇フランシスコの言葉より

聖ジュゼッピーナ・バキータを記念する日にあたり、教皇は「奴隷商人にさらわれ、暴力や侮蔑の中で、苦痛に満ちた体験をしながらも、神の恵みによって真の自由と喜びを得た聖人の生涯」を回想され、その聖性は「今日の『社会の傷』ともいえる新しい形の奴隷制に立ち向かうよう呼びかけるだけでなく、貧しい人たちに優しさと憐みをもって接することを模範をもって教えてください」と話された。（2019.2.8 バチカン放送）

<バキータの生涯> (カノッサ会のHPと女子パウロ会HP "Laudate"より)

バキータは1869年、南ダルフルのオルゴッサに生まれました。彼女は、すでに何世紀も前からスーダンの南西部に定住するダジュ族に属しています。「苦しみとは、どんなものかも知らない幸せのものわたしでした」と、彼女自身がはっきり言っています。

バキータは男3人、女3人の6人兄弟でした。お姉さんは1874年、奴隷商人たちにさらわれました。バキータは7歳のころ2人のアラビア人にさらわれました。1ヵ月間監禁され、その後、奴隷商人に売り飛ばされます。ありったけの力をしぼって脱走を試みましたが、羊飼いにつかまり、間もなく、冷酷な顔立ちのアラビア人に売り払われます。その後、奴隷商人に売り払われます。ある日、情け容赦なくなぐられ、気絶してその場に倒れこみ、いつまでも血の海のなかに放っておかれたこともありました。その後、トルコ将軍に売られました。将軍の妻は、バキータの胸部・腹部・腕などにカミソリで114カ所の切れ目を入れ、入れ墨をしました。かわいそうにバキータは、もう死んでしまうのではないかと思ったほどでした。特に、傷口を広げておくために、切り口に塩を強くこすりこむときの苦痛は言葉ではとても言い表せないものでした。血まみれの体は、寝わらの上に移され、傷口からにじみ出る血やうみを拭く一枚の布きれさえ与えられずに、そのまま1ヵ月間も放っておかれました。奴隷としてオルゴッサから歩きはじめたバキータの道は、ベニスで終わり、自由の身分を獲得することになります。7歳(1876年)で始まった奴隷の生活は、20歳(1889年)で終わりました。

「わたしが死ななかつたのは、わたしをすばらしいことのために用意された主の奇跡なのです」とバキータは言っています。

この体験が彼女の心に深い傷を与え、彼女は自分の名前を忘れてしまいました。そのため、他の奴隷たちからバキータと名付けられました。「バキータ」とは、「幸運」という意味でした。

バキータが16歳のとき、スーダンの領事だった、イタリア人のカッリスト・レニャーニが、彼女をあたたかく迎え、自由を与えました。彼は、友人のアウグスト・ミキエーリにバキータを託し、ミキエーリは娘の乳母として彼女をイタリアに連れて行ったのでした。バキータは、ヴェネツィアでカノッサ修道女会を知り、洗礼を受け、1893年に修道会に入ることを決心しました。

ヴェローナの北東にあるスキーオに移り、料理や縫い物をして共同体に奉仕しました。やさしく、穏やかで、いつもほほえんでいた彼女は、皆に愛されました。後に自伝を公にしたことで、彼女の徳の高さはイタリア中に知れ渡るのです。

晩年、病に苦しみましたが、「主のみ旨のままに」とすべてを受け止め、1947年2月8日に、亡くなりました。そして2000年10月1日に教皇ヨハネ・パウロ2世によって、列聖されました。

聖バキータのことは

人々は私の過去の話を知ると「かわいそう！かわいそう！」と言います。でも、もっとかわいそうなのは神を知らない人です。私を誘拐し、ひどく苦しめた人に出会ったら、跪いて接吻するでしょう。あのことがなかったら、私は今、キリスト者でも修道女でもないからです。



「タリタクム」は人身取引に反対する奉獻生活者の国際ネットワークです。世界の様々な国で加盟しています。

「タリタクム日本」は、男女修道会と難民移住移動者委員会が連携して、日本における人身取引の問題に取り組んでいます。

「タリタクム日本」は、2月8日のために祈りを作成しました。ご活用ください。各支部で、祈りと黙想と行動に参加しましょう。

このような祈りのカードが届いていると思います。ぜひ唱えてください。

<https://www.jcarm.com/2020/01/23/992/>
こちらからもダウンロードできます。

2月8日は、「世界に人身取引、搾取と労働の日」そして聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日です。

聖ジュゼッピーナ・バキータをご存知ですか？ スーダン出身の聖バキータは、「まで誘拐され、奴隷として売られ、スーダンとイタリアで働いた後、自由になり、洗礼を受けて、カノッサ修道会修道女となり、2000年に列聖されました。

今年のテーマは「人身取引にともな反対しよう」です。わたしたちのアクションをとりまとめ、力を結集することが必要です。「人身取引にともな反対しよう」のテーマを通して、それぞれができることと取り組むなら、この日の前と後と行動に参加することが呼びかけられています。

【年】 国際タリタクムウェブサイト
カノッサ修道会日本支部ウェブサイト
カノッサ修道会ウェブサイト
「人身取引、搾取と労働」32頁

神は、人がみな、聖なる者、幸せな者となることを望んでおられます。父である神の愛に信頼することによって、わたしたちはあらゆる形勢の束縛から解放され、人間の偉大な尊厳に気づき、本当の自分自身になります。聖母フランシスコは、このことが聖ジュゼッピーナ・バキータのうらみなられると強調されます。

祈りましょう。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、あなたは、わずかに歳で誘拐されました。やがて、あなたは、執事な主人たなららどい苦しみを受けて、また、すべてで人間の主人であるという深い現実を理解するようになりました。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、父である神の愛を知らず、自分の尊厳を守ることでできないすべての人のとりなしとなって取り戻してください。

神ご自身が、現代の人身取引といわれる罪によって奪われ、傷つけ、不当な扱いをされているすべての人を解放してください。不当な束縛から解放された人々に励みをもたらされ、わたしたちの目を開き、尊厳と自由を奪われた多くの兄弟姉妹の高潔と徳を賞讃してください。イエスを聖母と信頼をもって見つめることができるように導いてください。

わたしたちが困難に生じている出来事に対して無関心にならず、目を開き、尊厳と自由を奪われた多くの兄弟姉妹の高潔と徳を賞讃してください。イエスを聖母と信頼をもって見つめるように。そして、助けを求めるとある人々の叫びを聞くことができるように、わたしたちのために祈り、とりなしてください。

わたしたちの主、イエス・キリストによって、アーメン。